

県内企業景況調査結果

(2023年10~12月期実績、2024年1~3月期見通し)



— 県内景況は、拡大している —

(前回)県内景況は、引き続き回復している

- 業況判断D.I.は「好転」超幅がやや拡大し、**7期連続のプラス**
来期は「好転」超幅がやや縮小する見通し (4ページ)
- 景況天気は6期連続の「晴れ」。来期も引き続き「晴れ」となる見通し (7ページ)

■主要D.I.(カッコ内は前回調査からの変動幅)

(参考)

	業況判断D.I.	景況天気	売上D.I.	採算水準D.I.	資金繰りD.I.	雇用判断D.I.
当期実績	21.0 (+3.0)	 晴れ 21.0(+3.3)	27.4 (+6.0)	31.7 (+7.2)	4.0 (▲3.1)	54.9 (+4.6)
来期見通し	17.7	 晴れ	23.5	30.8	2.1	57.0

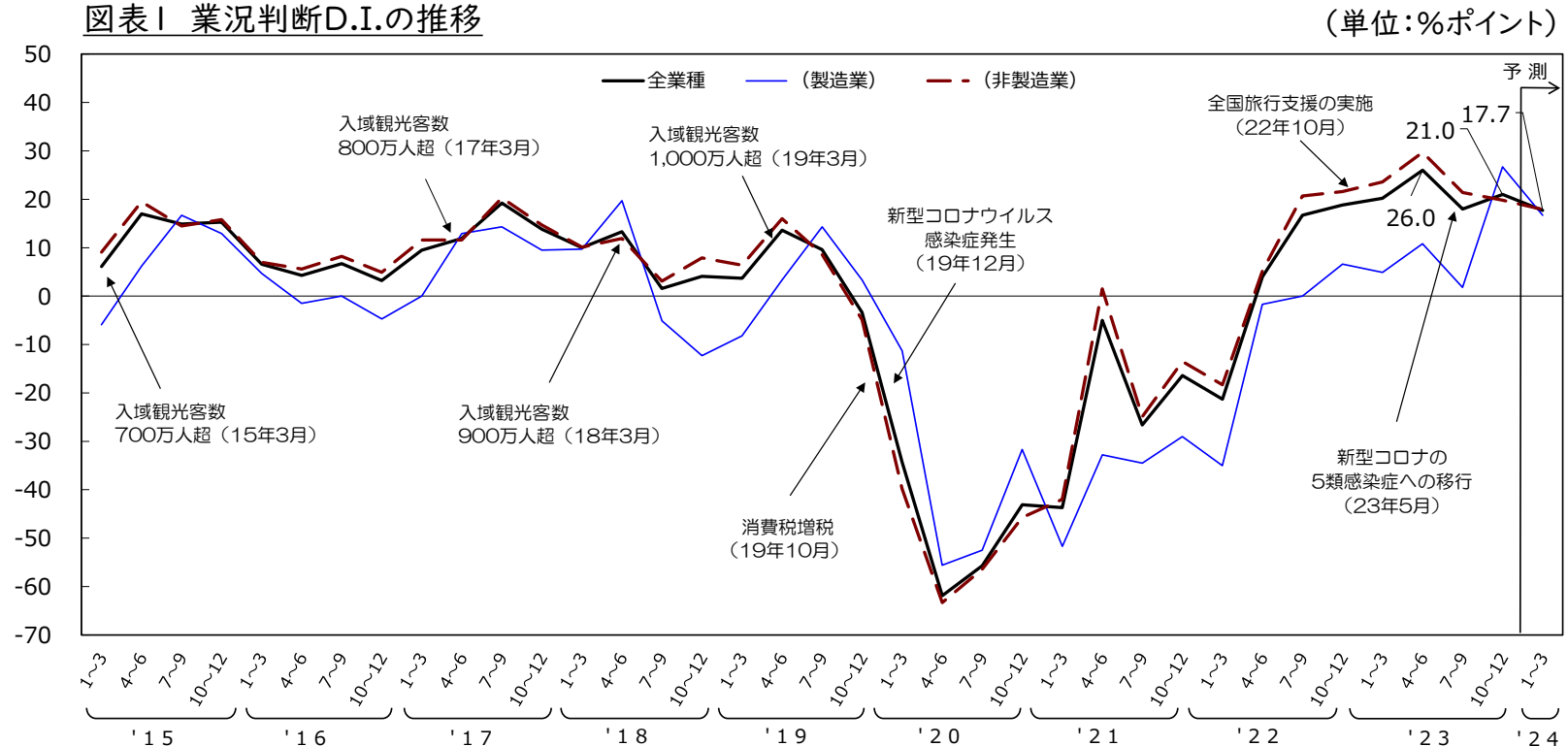
[調査内容についてのお問い合わせ先]

調査部 金融経済調査課(担当:新里) 沖縄県那覇市おもろまち1-2-26 電話:098-941-1725

調査結果の概要 (I)業況判断D.I.

- 実績(10~12月期):「好転」超幅がやや拡大し、**7期連続のプラス**〔前期18.0%ポイント(以下、単位省略)⇒当期21.0〕
→ 観光需要や個人消費に底堅さがみられるほか、建設需要も高まっていることから、県内景況は拡大している
- 見通し(1~3月期):来期は「好転」超幅がやや縮小する見通し 〔来期17.7〕
→ 原材料高や人手不足の影響はあるも、県内景況は総じて拡大基調が続くとみられる

図表I 業況判断D.I.の推移



(2)景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値)

- 実績：6期連続の「晴れ」** [前期17.7 ⇒ 当期21.0]
 小売業で「晴れ」→「快晴」、製造業で「薄曇り」→「晴れ」
 卸売業、飲食店・宿泊業で引き続き「快晴」、運輸業、サービス業で引き続き「晴れ」
 建設業で引き続き「薄曇り」、情報通信業で引き続き「曇り」
- 見通し：引き続き「晴れ」となる見通し** [来期18.8]
 飲食店・宿泊業で「快晴」→「晴れ」、卸売業、小売業で引き続き「快晴」
 製造業、運輸業、サービス業で引き続き「晴れ」、建設業で引き続き「薄曇り」
 情報通信業で引き続き「曇り」

図表2 全産業における景況天気図の推移

(単位:%ポイント)

区分	2022年		2023年				2024年
	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績
全産業	16.2	12.1	15.7	20.7	17.7	(20.4)	21.0
景況天気図	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
	16.2	12.1	15.7	20.7	17.7	(20.4)	21.0
							18.8

快晴 — 30以上~ 100以下
 晴 — 10以上~ 30未満
 薄曇り — △ 5以上~ 10未満
 曇り — △ 30以上~△ 5未満
 雨 — △100以上~△30未満

I. 調査要領

1. 調査目的

本調査は、県内における企業の景況を把握し、企業経営のための情報を提供することを目的とする。

2. 調査対象

沖縄県内に本社のある法人企業のうち、原則として資本金1千万円以上かつ従業員数20名以上の企業を対象とする。

3. 調査対象企業数及び回答状況

業種	項目	調査対象企業数 (A)	回答数 (B)	回答率 (%) (B)/(A) ×100
	全産業	372	328	88.2
	製造業	68	60	88.2
	建設業	68	64	94.1
	卸売業	49	47	95.9
	小売業	47	37	78.7
	運輸業	34	31	91.2
	情報通信業(※1)	23	18	78.3
	サービス業	46	40	87.0
	飲食店・宿泊業	34	28	82.4

※1 情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

※2 全産業には電力・ガス、不動産業が含まれるため、各業種合計と全産業の値は一致しない。

4. 調査方法

対象企業に調査票を郵送し、自計記入を求める方法による。

5. 調査対象期間

当期:2023年10~12月期実績

来期:2024年1~3月期見通し

6. 調査実施期間

2023年11月中旬~2023年12月上旬

(発送:2023年11月10日、回収基準日:2023年12月1日)

7. 用語説明等

- 本調査は、原則として前年同期との比較による調査であるが、採算水準、在庫水準、雇用判断については当該期に関する質問となっている。
- D.I. (Diffusion Index) とは、質問に対しプラス、中立、マイナスの3つの選択肢を用意し、このうちプラスと答えた企業の割合から、マイナスと答えた企業の割合を差し引いたものである。
- 景況天気については、売上、採算水準、資金繰りD.I.を平均し、その値を5段階に区分して判定している。

Ⅱ. 調査結果 Ⅰ. 業況判断

— 当期は「好転」超幅がやや拡大し、7期連続のプラス

来期は「好転」超幅がやや縮小する見通し —

- 当期の業況判断D.I.(全産業)は21.0と、7期連続のプラスとなった。
- 特に、製造業(26.7)は比較可能な95年4-6月期の調査以来、過去最高の水準に、卸売業(40.4)では過去2番目に高い水準となり、全産業の業況判断D.I.の引き上げに大きく寄与した。
- 修学旅行などの団体旅行をはじめとする観光需要や個人消費に底堅さがみられたことに加え、公共・民間ともに建設需要が高まっていることから、県内景況は拡大している。
- 来期の業況判断D.I.は17.7と、「好転」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

図表3 業況判断D.I. (前年同期比、「好転」-「悪化」企業割合)

(単位:%ポイント)

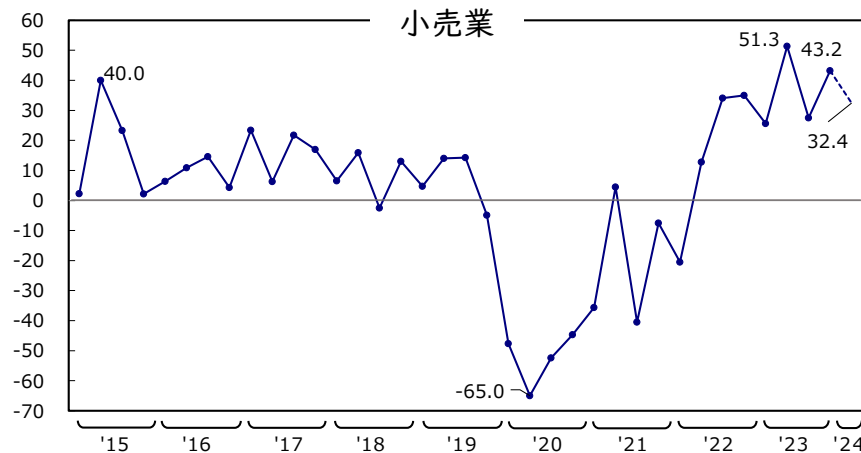
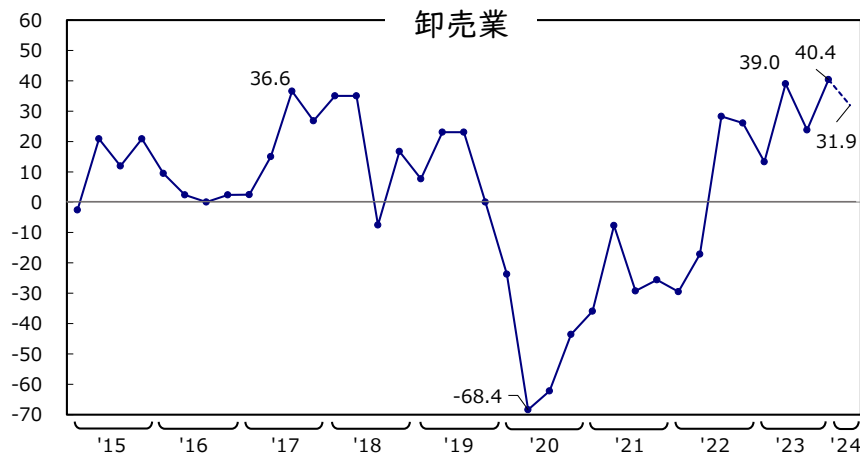
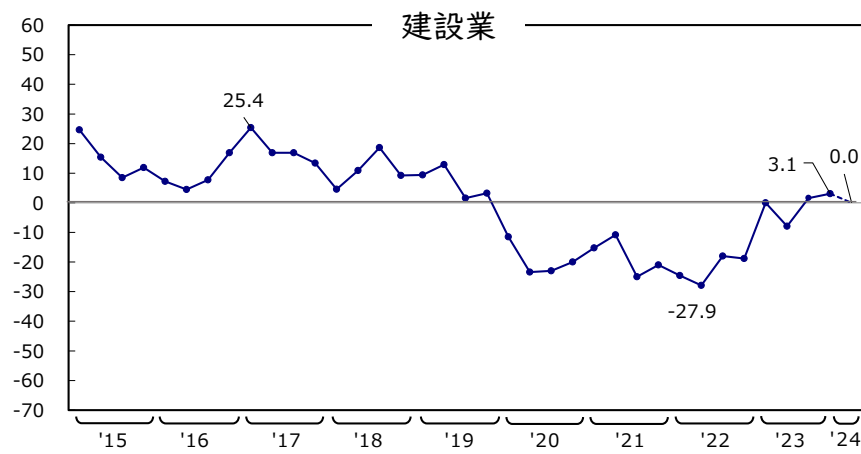
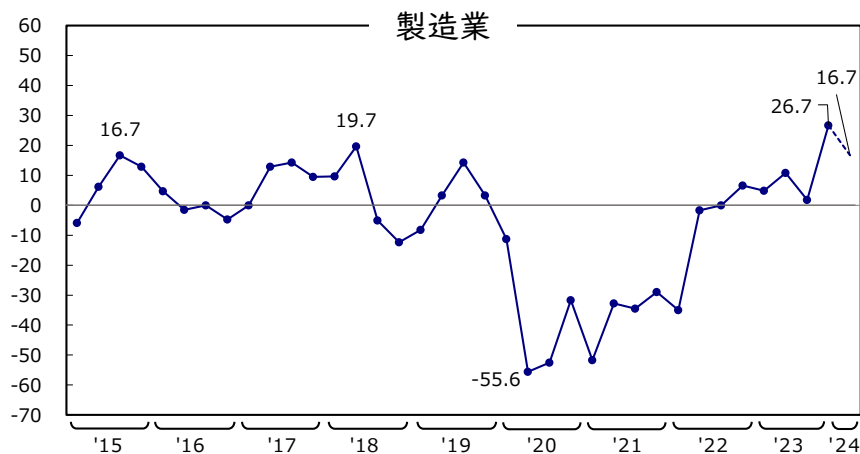
業種	区分	2022年		2023年				2024年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I.(①-②)	16.7	18.8	20.2	26.0	18.0	(20.5)	21.0	17.7
	① 好転(%)	35.5	40.3	39.5	41.6	35.7	(34.8)	37.5	31.1
	不変(%)	45.7	38.2	41.3	42.8	46.6	(50.9)	46.0	55.5
	② 悪化(%)	18.8	21.5	19.3	15.6	17.7	(14.3)	16.5	13.4
	製造業	0.0	6.6	4.9	10.8	1.8	(12.5)	26.7	16.7
	建設業	△ 18.0	△ 18.8	0.0	△ 7.9	1.6	(1.6)	3.1	0.0
	卸売業	28.3	26.1	13.3	39.0	23.8	(38.1)	40.4	31.9
	小売業	34.1	35.0	25.6	51.3	27.5	(10.0)	43.2	32.4
	運輸業	32.3	35.5	35.5	43.8	28.1	(34.4)	19.4	25.8
	情報通信業(※)	△ 9.5	△ 10.5	4.8	△ 19.0	△ 5.3	(△ 5.3)	△ 27.8	△ 5.6
	サービス業	24.4	33.3	26.8	37.2	24.4	(24.4)	17.5	20.0
	飲食店・宿泊業	81.5	74.1	88.9	81.5	63.0	(59.3)	28.6	21.4

※情報通信業は、①通信業、②放送業、③情報サービス業、④出版・新聞業から構成される。

- 製造業では、公共工事向けの生コン出荷量が増加した。また、包装・梱包資材の販売量が増加したことに加えて、段階的な値上げの効果により、業況が改善したことから「好転」超幅が大幅に拡大した。
- 卸売業では、飲食料品が引き続き好調に推移するなか、特に建設資材の需要が伸びたことや、石油は一般用産業用ともに販売量が増加した影響が大きく、「好転」超幅が大幅に拡大した。

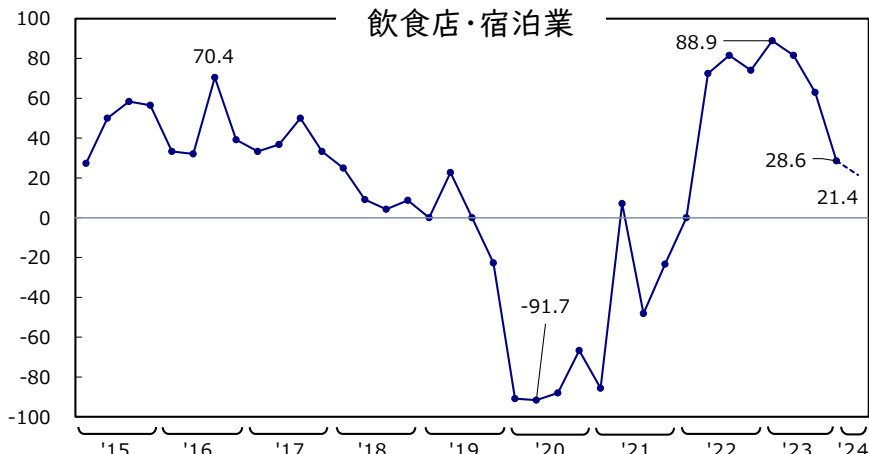
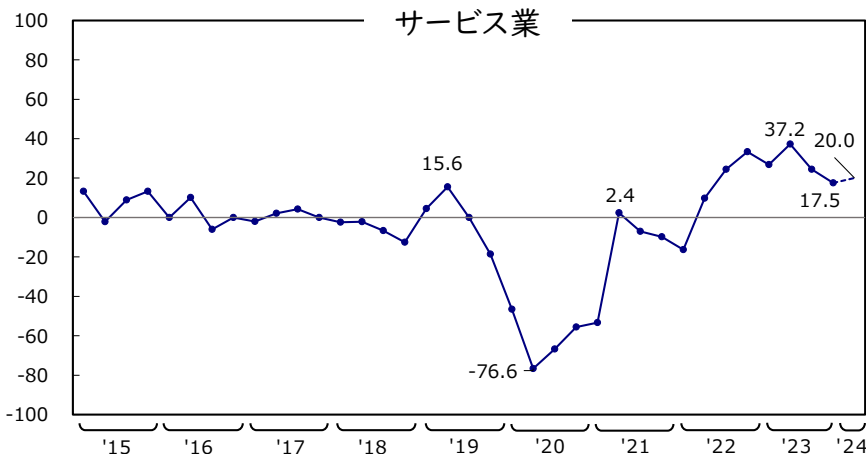
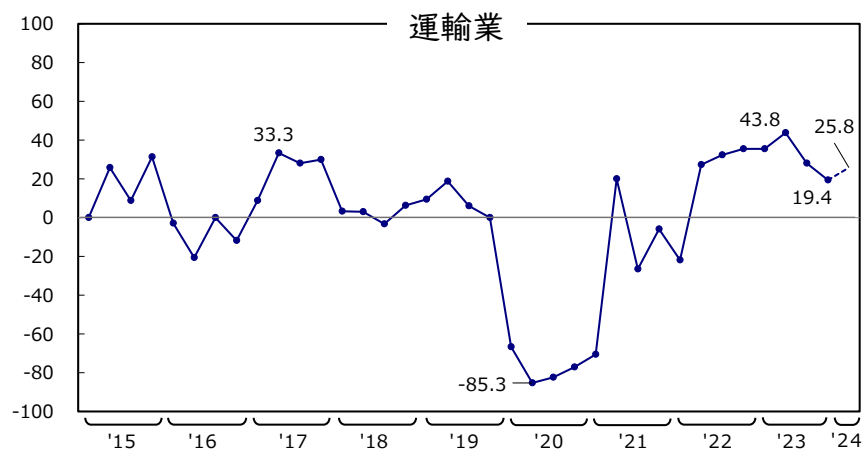
図表4-1 業種別の業況判断D.I.の推移

(単位:%ポイント、点線は見通し)



- 飲食業では、「不変」回答の割合が高くなったことや、宿泊業では、修学旅行などの団体旅行で回復がみられるも、旅行支援策が開始した前年同期の反動減により、「好転」超幅が大幅に縮小した。
- 情報通信業では、放送業や新聞業でイベントなどの広告は増加するも、企業広告を縮小する動きが継続していることや、情報サービス業で競争激化の影響により受注が減少した先がみられ、「悪化」超幅が大幅に拡大した。

図表4-2 業種別の業況判断D.I.の推移 (単位:%ポイント、点線は見通し)



2. 景況天気

— 当期は6期連続の「晴れ」、来期も「晴れ」の見通し —

- 当期の県内企業の動向を全産業ベースで見ると、資金繰りD.I. (7.1→4.0) で「楽」超幅がやや縮小したものの、売上D.I. (21.4→27.4) で「増加」超幅が拡大、採算水準D.I. (24.5→31.7) で「黒字」超幅が拡大したことから、景況天気 (17.7→21.0) は6期連続の「晴れ」となった。
- 来期の見通しは、売上D.I. (23.5) で「増加」超幅がやや縮小するものの、採算水準D.I. (30.8) で「黒字」超幅がほぼ横這い、資金繰りD.I. (2.1) で「楽」超幅がほぼ横這いとなることから、景況天気 (18.8) は「晴れ」の見通しとなっている。

図表5-1 景況天気図 (売上D.I.、採算水準D.I.、資金繰りD.I.の平均値) (単位:%ポイント)

業種	区分	2022年				2023年				2024年
		7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 前回実績	10~12月期 前回見通し	今回実績	今回見通し	
全産業		16.2	12.1	15.7	20.7	17.7	(20.4)	21.0	18.8	
製造業		12.0	△ 1.1	8.7	8.2	8.3	(22.0)	25.0	22.8	
建設業		△ 7.1	△ 10.9	△ 2.1	2.6	2.7	(2.7)	6.3	4.2	
卸売業		24.6	18.8	17.8	28.5	33.3	(33.3)	38.3	34.8	
小売業		32.5	36.7	29.9	39.3	26.7	(28.3)	33.3	31.5	
運輸業		20.4	16.1	24.7	31.3	25.0	(33.3)	24.7	23.7	
情報通信業		△ 1.6	△ 10.5	△ 7.9	△ 17.5	△ 22.8	(△ 15.8)	△ 27.8	△ 5.6	
サービス業		23.6	23.9	22.8	31.8	19.5	(18.7)	19.2	17.5	
飲食店・宿泊業		34.6	39.5	43.2	50.6	50.6	(35.8)	32.1	11.9	

	快晴	—	30以上～100以下
	曇り	—	△ 30以上～△ 5未満
	晴	—	10以上～30未満
	雨	—	△ 100以上～△ 30未満
	薄曇り	—	△ 5以上～10未満

図表5-2 全産業における主要3指標の推移

区分	2023年			2024年
	7~9月期 前回実績	10~12月期 前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業				
売上D.I.	21.4	(29.5)	27.4	23.5
採算水準D.I.	24.5	(29.5)	31.7	30.8
資金繰りD.I.	7.1	(2.2)	4.0	2.1

3. 売上

— 当期は「増加」超幅が拡大、来期は「増加」超幅がやや縮小する見通し —

- 当期の売上D.I.は、全産業で27.4と「増加」超幅が拡大しており、22年4-6月期以降「増加」超で推移している。
- 特に、製造業(38.3)、卸売業(48.9)及び小売業(54.1)では販売数量が大幅に増加したことにより、過去2番目に高い水準となった。また建設業では19年4-6月期以来、18期ぶりに「増加」超に転じた。
- 来期は、全産業で23.5と「増加」超幅がやや縮小する見通しとなっている。

図表6 売上D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2022年		2023年				2024年	
	7~9月期 実績	10~12月期 実績	1~3月期 実績	4~6月期 実績	7~9月期 前回実績	10~12月期 前回見通し	今回実績	1~3月期 今回見通し
	全産業 D.I. (①—②)	28.4	24.5	25.0	29.3	21.4	(29.5)	27.4
① 増加(%)	52.2	49.7	51.8	53.3	46.9	(44.7)	48.5	40.2
不変(%)	23.9	25.2	21.4	22.8	27.6	(40.1)	30.5	43.0
② 減少(%)	23.9	25.2	26.8	24.0	25.5	(15.2)	21.0	16.8
製造業	25.0	14.8	23.0	12.3	7.1	(26.8)	38.3	28.3
建設業	△ 27.9	△ 21.9	△ 14.1	△ 12.7	△ 4.8	(△ 6.5)	4.7	△ 3.1
卸売業	30.4	28.3	17.8	39.0	33.3	(38.1)	48.9	40.4
小売業	41.5	47.5	43.6	64.1	45.0	(42.5)	54.1	48.6
運輸業	51.6	38.7	41.9	46.9	31.3	(56.3)	25.8	35.5
情報通信業	14.3	0.0	△ 14.3	△ 28.6	△ 21.1	(△ 10.5)	△ 27.8	△ 11.1
サービス業	43.9	43.6	41.5	55.8	26.8	(39.0)	20.0	27.5
飲食店・宿泊業	96.3	85.2	88.9	85.2	66.7	(63.0)	39.3	17.9

4. 採算水準

— 当期は「黒字」超幅が拡大、来期は「黒字」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の採算水準D.I.は全産業で31.7と「黒字」超幅が拡大し、情報通信業以外の業種で「黒字」超となった。
- 運輸業では、23年10月よりタクシーや貸切バスの運賃改定が行われたことや、サービス業のうち洗濯業や観光施設で料金の値上げを実施した先がみられたことから、「黒字」超幅が拡大した。
- 来期は、全産業で30.8と「黒字」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表7 採算水準D.I. (当該期、「黒字」-「赤字」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年		2023年				2024年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	17.3	14.8	19.6	24.0	24.5	(29.5)	31.7	30.8
	① 黒字(%)	39.7	37.6	39.5	43.7	42.9	(42.9)	46.6	42.1
	トト(%)	37.9	39.7	40.7	36.5	38.8	(43.8)	38.4	46.6
	② 赤字(%)	22.4	22.7	19.9	19.8	18.3	(13.4)	14.9	11.3
	製造業	18.8	3.3	8.2	10.8	10.7	(32.1)	36.7	31.7
	建設業	8.2	△ 1.6	14.1	20.6	19.4	(19.4)	17.2	26.6
	卸売業	45.7	39.1	42.2	48.8	69.0	(64.3)	66.0	61.7
	小売業	31.7	47.5	33.3	41.0	25.0	(40.0)	37.8	37.8
	運輸業	12.9	6.5	19.4	31.3	21.9	(31.3)	35.5	22.6
	情報通信業	△ 9.5	△ 15.8	0.0	△ 14.3	△ 36.8	(△21.1)	△ 38.9	0.0
	サービス業	17.1	23.1	26.8	27.9	22.0	(19.5)	32.5	25.0
	飲食店・宿泊業	△ 14.8	3.7	0.0	11.1	44.4	(22.2)	25.0	10.7

5. 資金繰り

— 当期は「楽」超幅がやや縮小、来期は「楽」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の資金繰りD.I.は、全産業で4.0と「楽」超幅がやや縮小した。
- 来期以降の需要増加を見据え、仕入れなど先行的に支出が増加した先がみられた一方、原材料高や人件費増加の影響が続いているとの声が聞かれた。
- 来期は、全産業で2.1と「楽」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表8 資金繰りD.I. (前年同期比、「楽」-「苦しい」企業割合)

(単位:%ポイント)

区分 業種	2022年		2023年				2024年	
	7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期	1~3月期	
	実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	
全産業 D.I. (①-②)	3.0	△ 3.0	2.4	8.7	7.1	(2.2)	4.0	2.1
① 楽 (%)	13.1	9.4	13.0	17.4	15.2	(10.9)	13.1	10.4
不変 (%)	76.7	78.2	76.5	74.0	76.7	(80.4)	77.7	81.4
② 苦しい (%)	10.1	12.4	10.5	8.7	8.1	(8.7)	9.1	8.2
製造業	△ 7.8	△ 21.3	△ 4.9	1.5	7.1	(7.1)	0.0	8.3
建設業	△ 1.6	△ 9.4	△ 6.3	0.0	△ 6.5	(△4.8)	△ 3.1	△ 10.9
卸売業	△ 2.2	△ 10.9	△ 6.7	△ 2.4	△ 2.4	(△2.4)	0.0	2.1
小売業	24.4	15.0	12.8	12.8	10.0	(2.5)	8.1	8.1
運輸業	△ 3.2	3.2	12.9	15.6	21.9	(12.5)	12.9	12.9
情報通信業	△ 9.5	△ 15.8	△ 9.5	△ 9.5	△ 10.5	(△15.8)	△ 16.7	△ 5.6
サービス業	9.8	5.1	0.0	11.6	9.8	(△2.4)	5.0	0.0
飲食店・宿泊業	22.2	29.6	40.7	55.6	40.7	(22.2)	32.1	7.1

6. 借入難易

— 当期は「容易」超幅がやや縮小、来期は「容易」超幅がほぼ横這いの見通し —

- 当期の民間金融機関からの借入難易D.I.は、全産業で3.0と「容易」超幅がやや縮小した。
- 来期は、全産業で1.8と「容易」超幅がほぼ横這いの見通しとなっている。

図表9 借入難易D.I. (前年同期比、「容易」-「困難」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年		2023年				2024年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①—②)	1.2	0.0	1.8	2.7	6.2	(5.0)	3.0	1.8
	① 容易(%)	4.8	4.5	6.0	4.8	8.7	(8.4)	5.5	5.2
	不変(%)	91.6	90.9	89.8	93.1	88.8	(88.2)	92.1	91.5
	② 困難(%)	3.6	4.5	4.2	2.1	2.5	(3.4)	2.4	3.4
	製造業	3.1	△ 1.6	△ 1.6	△ 1.5	7.1	(7.1)	3.3	3.3
	建設業	△ 1.6	1.6	6.3	3.2	3.2	(4.8)	3.1	1.6
	卸売業	6.5	6.5	0.0	2.4	7.1	(7.1)	2.1	2.1
	小売業	4.9	0.0	5.1	2.6	5.0	(△5.0)	0.0	0.0
	運輸業	3.2	△ 3.2	0.0	0.0	9.4	(9.4)	6.5	6.5
	情報通信業	0.0	5.3	0.0	4.8	△ 5.3	(△5.3)	5.6	△ 11.1
	サービス業	0.0	△ 2.6	2.4	9.3	9.8	(9.8)	2.5	2.5
	飲食店・宿泊業	△ 11.1	△ 7.4	0.0	3.7	11.1	(7.4)	3.6	3.6

Ⅲ. 参考 販売数量、販売価格

参考1. 販売数量 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は23.6と「増加」超幅が大幅に拡大した。来期は27.1と「増加」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

図表10 販売数量D.I. (前年同期比、「増加」-「減少」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年		2023年				2024年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	12.6	10.2	11.0	11.0	5.8	(15.9)	23.6	27.1
	① 増加(%)	41.1	44.2	44.1	41.4	38.4	(37.7)	44.4	41.7
	不変(%)	29.8	21.8	22.8	28.3	29.0	(40.6)	34.0	43.1
	② 減少(%)	28.5	34.0	33.1	30.3	32.6	(21.7)	20.8	14.6

参考2. 販売価格 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期は63.2と「上昇」超幅が縮小した。来期は52.8と「上昇」超幅が大幅に縮小する見通しとなっている。

図表11 販売価格D.I. (前年同期比、「上昇」-「下降」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年		2023年				2024年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業	D.I. (①-②)	70.9	67.3	76.6	64.8	71.7	(65.2)	63.2	52.8
	① 上昇(%)	72.8	70.7	79.3	69.0	73.9	(68.1)	67.4	56.9
	不変(%)	24.5	25.9	17.9	26.9	23.9	(29.0)	27.8	38.2
	② 下降(%)	2.0	3.4	2.8	4.1	2.2	(2.9)	4.2	4.2

在庫水準、雇用判断

参考3. 在庫水準 ※製造業・卸売業・小売業のみ

- 当期末は△6.3と、前期末と比べて「不足」超から「過剰」超へ転じた。

図表12 在庫水準D.I. (当該期末の水準、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年		2023年			
		9月期末	12月期末	3月期末	6月期末	9月期末	12月期末
全産業D.I. (①-②)		△ 5.3	0.0	△ 2.1	△ 2.1	1.4	△ 6.3
	① 不足(%)	7.3	10.2	6.9	6.9	10.1	4.9
	適正(%)	79.5	79.6	84.1	84.1	81.2	83.3
	② 過剰(%)	12.6	10.2	9.0	9.0	8.7	11.1

参考4. 雇用判断

- 当期の雇用判断D.I.は、全産業で54.9と「不足」超幅がやや拡大した。
- 来期も、全産業で57.0と「不足」超幅がやや拡大する見通しとなっている。

図表13 雇用判断D.I. (当該期、「不足」-「過剰」企業割合)

(単位:%ポイント)

業種	区分	2022年		2023年				2024年	
		7~9月期	10~12月期	1~3月期	4~6月期	7~9月期	10~12月期		1~3月期
		実績	実績	実績	実績	前回実績	前回見通し	今回実績	今回見通し
全産業 D.I. (①-②)		40.9	47.3	51.8	48.8	50.3	(52.2)	54.9	57.0
	① 不足(%)	43.9	48.8	53.3	50.6	51.9	(53.4)	56.4	58.2
	適正(%)	53.1	49.7	45.2	47.6	46.6	(45.3)	42.1	40.5
	② 過剰(%)	3.0	1.5	1.5	1.8	1.6	(1.2)	1.5	1.2

経営上の問題点

参考5. 経営上の問題点

- 当面の経営上の問題点としては、「**原材料高**」や「**求人難**」、「**人件費の増加**」の割合が高かった。
- 幅広い業種で原材料高と人手不足の影響が続くなか、「人件費の増加」の割合が高くなった。23年10月の最低賃金の大幅な改定を機に、人材の確保や流出防止の観点から賃上げの動きが活発化したことが背景にある。

図表14 経営上の問題点 (複数回答)

